

ひょうご

# 職親会だより

2017.3 第38号

※ 兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会(職親会)は、精神障害者の就労を支援する事業主の会です。

報告

## 平成28年度兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会地域研修会

平成29年2月17日、平成28年度地域研修会を兵庫県農業共済会館にて開催いたしました。今号では本研修会の内容を一部ではありますがお届けします。

### 講演 「リカバリー志向の就労・定着支援」

特定非営利活動法人地域精神保健福祉機構(コンボ)  
桶谷 肇 氏

#### ●「ぜんかれん」からのスタート

1984年からぜんかれん(全国精神障害者家族会連合会)職員として、家族会による作業所づくりや、精神障害者の通所・入所の授産施設とホテルの複合施設「ハートピアきつれ川」の運営に関わった。

#### ●コンボとは

コンボは解散したぜんかれんの事業を引き継ぐような形で設立された団体。

精神障害を持っている人が主体的に生きていく社会を創ることを目的に、「リカバリー」という考えを広げる活動を行っている。

#### ●リカバリーとは

それぞれの自己実現やその求める生き方を主体的に追求するプロセスのこと。あえて「回復」という言葉を使うとすれば「病気によって失われた尊厳や人生、やりたかったことを回復する過程」。病気であっても自己実現は可能。昔、作業所でよく使われた「その人らしい生き方」という言葉、「メンバーのニーズに合わせた」活動は、リカバリーの理念そのもの。

#### ●就労支援の現状

障害者自立支援法施行以前、精神障害者の就労支援施策は社適のみ。作業所や授産施設に「就労」という意識はなかった。平成18年を境に就労支援の取り組みは劇的に変化した。平成30年には障害者雇用算定基準に精神障害者が含まれることになる。

#### ●現在の精神障害者の就労状況

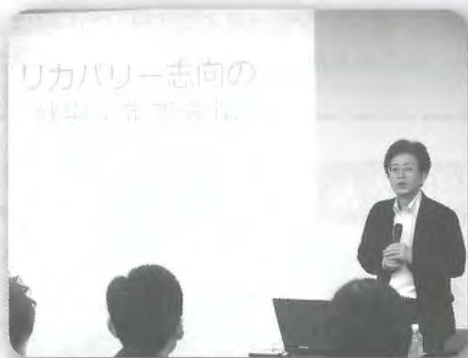
平成27年度にハローワークを通じて就職した障害者の43%が精神障害者。しかし実際の雇用状況を見ると精神は定着が進んでいない。

#### ●リカバリー志向の就労支援とは

働きたいという思いを実現する支援。企業に理解がない、偏見がある等言っているようではダメ。その人がやりたいこと、その人に合う職場を探すことと、定着のための外部からの支援が必要。

#### ●定着のためには何が必要か

相談できる上司、信頼関係、職場の同僚の見守りがあること。職場内で苦労や思いが受け止め合える安心感のある職場環境づくりが大切。基本的なことのようなが今の企業はそれすら難しい現況。そこでウェブを使った体調管理システム(S P I S)を活用する等の取組みも始まっており、大阪府ではモデル事業として展開中である。





## 体験発表 「働くこととリカバリー～当事者の視点から～」

有限会社サポートセンターれいめい

赤藤 英樹 氏

坂田 泰智 氏

### 赤藤さん

- ◎19才のとき、職場を解雇されたことをきっかけに統合失調症を発症した。
- ◎仕事への思いはあったが、こんな状態の私を雇う会社があるはずもなく、運良く採用されても数日で辞めてしまうの繰り返し。漠然と病院のデイケアに通いながら、仕事もできず結婚もできない、将来に何の期待もできないなら死んだ方がよいのかと自殺すら考えた。
- ◎周囲を安心させるため、夢や願望は持たないよう努めた。周囲も落ち着いた私に一安心、という雰囲気、私自身もこれがベストな生き方だと悟らざるを得なかった。そんなとき、デイケアの就労支援メニューの講師として来られていたれいめいの野村さんに出会った。れいめいで社会適応訓練を受けている障害者の方が、皆元気になられていて、心のどこかで羨ましいと感じていた。野村さんがそんな私に気付き、声をかけてくれた。チャレンジしてみようと思った。
- ◎周囲は、自分のこともできないのに他人のことができるはずがない、せっかく病状が安定してきたのに無理すると再発する、ストレスのかかる仕事は無理、と反対した。私たちの一番の理解者であるべき立場の支援者が病状の安定にしか目をむけていない。残された可能性の芽を摘むなんて、今思えば馬鹿げた話だと思う。
- ◎れいめいで社会適応訓練は失敗の連続だった。失敗しても怒られることはなかったがマナーやルールには厳しく、「病気を理由にするな」とも言われた。私のなかに病気を理由にする甘い考えがあったのだと思う。野村さんの厳しさのなかにある優しさをだんだん理解できるようになった。仕事を9年間続けてこられた一番の理由は、利用者さんからの感謝と期待のことば。感謝を期待することはあっても、されることはない人生と思っていた。今の目標は、年金に頼らない経済力を身につけ、結婚し幸せな家族を築きたい。そして同じ病気の方の支援をして多くの人を助けたい。
- ◎私が思う理想の職場の条件
  - ・病気を理解してくれ、労働時間や内容を配慮してくれる
  - ・何でも相談できる先輩がいる
  - ・尊敬できる人がいる
  - ・ある程度の責任を負わせてくれ、1人の労働力として認めてくれる
  - ・特別扱いせず厳しく指導してくれる
  - ・同じ病気の仲間がいる 等々
- ◎今の職場にはそのすべてがある。最初からあったものではなく、当事者から求めて改善していただいたものもある。要望を聞き改善してくれる、これも理想の職場の条件かもしれないと思う。わたしたち自身が変わることも大切。れいめいで学んだことは失敗の重要性。失敗を喜んでくれる環境は気を楽にした。今は皆に感謝している。この感謝の気持ちを社会に還元し人の役にたてればと思う。ピアサポートにも活かしていきたい。



### 坂田さん



- ◇自動車のディーラーで営業をしていた6年前にうつ病を発症。
- ◇仕事のミスをきっかけに、体が震えマイナスのことしか考えられなくなる等の異変を感じるようになった。情けなさから死ぬことしか考えられなくなった。仕事を辞める勇気はないのに死ぬ覚悟はあった。
- ◇入院して、仕事を辞めても家族は路頭に迷わないことがわかったが仕事に対する自信はなく、社会復帰できるはずがない、という自信だけがあった。そんな状態の時にれいめいとお会った。野村さんから、病状と相談しながら社会復帰に向けた訓練をしようと提案があり、かすかな希望が出てきた。簡単な仕事から始め、成功体験を重ねて、失った自信を取り戻そうとした。

◇最初は週2回の高齢者対象のパソコン教室のアシスタント。メイン講師は車いすの身体障害者で私の



役割は講師の足になることだった。失敗も多かったが野村さんは失敗してもいつも笑顔で対応してくれた。

◇講師や生徒さんから「ありがとう」と言ってもらえることで、こんな自分が役に立っているという実感とともに自分の存在価値を確認することができ、喜びを感じることができた。その後ヘルパーの仕事にも入ることになった。元々介護の仕事に興味はなかったが「ありがとう」ということばが当たり前前に飛び交う世界に魅力を感じた。先輩も多く、指導や励まし、注意がきちんとあって心強かった。ピアサポートを一言でいうと気持ちを共有できる仲間だと思う。

◇現在はいれいめに雇用され、週30時間働いている。周囲のサポートに恵まれ、主治医やハローワーク等みんながわたしの将来をどうしていくかを一緒に考えてくれている。今、素直に生きてよかったと思う。死のうなんて二度と思わない。わたしの使命は同じような悩みをもつ人を救うことだと思っている。

## 対談

### 「働くこととリカバリー～当事者の視点から～」

特定非営利活動法人地域精神保健福祉機構  
有限会社サポートセンターいれいめい

桶谷 肇 氏  
赤藤 英樹 氏  
坂田 泰智 氏

**桶谷** 赤藤さんは9年、坂田さんは6年、ヘルパーの仕事が続けられている理由は？

**坂田** 体調に合わせて仕事を調整してもらえ、その配慮が一番大きい。

次に利用者からの感謝のことばが支えになっていて、それが続けられている理由だと思う。

**赤藤** 困ったときは相談に乗ってくれる関係があること。僕は利用者さんに相談に乗ってもらうこともあって、どっちがヘルパーがよくわからないけど(笑)。

**桶谷** お2人の雇用主である野村さんにも聞いてみたい。

**野村** もともと精神障害を隠して入社された方がいたのが障害者を雇用したきっかけ。後で知り、その時「病気があっても仕事ってできるんだ」と思った。彼らの主治医は、対人の仕事はストレスが大きいので無理だろうと言っていた。

**桶谷** 具体的にどんなサポートをしたのか？

**野村** 困ったときにはいつでも来なさいと言っているだけ。決して優しくしたわけではなくむしろ厳しく接してきた。簡単な配慮をしてきただけ。

**桶谷** 人間関係は避けて通れないものなので、うまく折り合いがつけられるように自分自身が変わっていけるかということが大切。傷付きすぎると回復が難しい。受け入れてもらえている安心感があることが大きいのだろうと思う。

それに2人とも「失敗しても怒られない。喜んでもらえる」と言っていたが具体的には、どのようなことがあったのか？

**赤藤** 入浴介助で髪の毛をシャンプーで洗わずリンスで洗ったとか。茶碗もよく割った。

**野村** 後でこそっと弁償しています。

**坂田** 入浴介助で手が滑って利用者に尻餅をつかせてしまった時、野村さんに「緊張感を持ってやりなさい」と言われた。

**桶谷** 利用者への迷惑は怒るが、それ以外は怒らないのは何か考えがあったのか？

**野村** これは彼らが障害者だからではない。他の職員でも同じ。失敗を叱れば萎縮する。また、利用者にはヘルパーが障害者であることをあらかじめ伝えて、了解していただいているのも大きい。生命に関わることだから。逆に、逃げて逃げての失敗とかマナーやルール違反は必ず叱っている。失敗することで成長してくれればいいかなと思っている。

**桶谷** 彼らは、リカバリー志向のサービスを受けて成功している。印象的なのは医療関係者が反対したこと。これはリカバリーの解釈がそれぞれに違うせい。医療関係者が考えるリカバリーの条件は服薬管理や寛解。医療関係者は病気の部分に焦点をあてる専門家だから仕方がない。でもそれでは病気を治すのが人生になってしまう。精神障害を理解するのではなく、その人を理解することが大切。働くことは大変なこと。定着に関する問題は当事者だけでなく日本の就労環境の問題ではないだろうか。当事者がどんどん発信して欲しい。





<フロアからの質疑応答>

- Q: 当事者として、支援する側、される側のよさとしんどさは?  
 A: この人はこんな人だと理解できると楽になる。  
 Q: コンディションの整え方は?  
 A: 自分なりの発散方法を見つける。飲みに行くことかな。



平成28年度ひょうごユニバーサル社会づくり賞受賞

兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会は、平成28年度ひょうごユニバーサル社会づくり賞（ユニバーサル社会づくりひょうご推進会議会長賞）を受賞しました。これは県内において、ユニバーサル社会をめざした先導的な実践活動を実践している団体、企業に授与されます。当会が平成9年の設立以来、保健医療福祉関係者、就労支援関係者、一般県民を対象とした研修会、機関誌発行をはじめ、様々な活動を実施していることが精神障害者の社会復帰、社会参加への支援として高く評価されました。

平成28年7月19日（火）兵庫県公館大会議室にて、他の12個人・団体とともに井戸敏三知事より賞状を授与されました。当日はひょうごユニバーサル社会づくり推進大会、第24回福祉のまちづくりセミナーも開催され、多くの参加者があり、会場からも盛大な拍手をいただきました。



職親会会員実数

(平成28年8月1日現在)

正会員	賛助会員(団体)	賛助会員(個人)	合計
35	53	80	168

☆兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会（職親会）会員及び賛助会員 募集中  
 （研修会の案内、機関誌『職親会だより』をお届けします）

会 員（社適事業所に限る）年会費 3,000円

賛助会員（団体）年会費 3,000円 賛助会員（個人）年会費 1,000円

☆当会では『手伝ってください！職場への第一歩』《手引き書（A4冊子）版・リーフレット版》を作っています。就労支援で困った時や啓発にご活用ください。

【事務局】〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2（兵庫県精神保健福祉センター内）

兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会（職親会）Tel 078-252-4980/Fax 078-252-4981

お問い合わせや、ご賛同いただける場合は、事務局までご連絡下さい。